

# 環境報告書 2006



同和鉱業株式会社



# DOWAだからこそできる

# 環境時代の貢献

## DOWAならではの環境問題への取り組み

当社の出発点である鉱山・製錬業は、大量の資源やエネルギーを必要とし、環境負荷の大きな業種と言われてきました。一方で、いかに環境負荷を抑えるか、つまりエネルギー消費を出来る限り抑制し、資源を無駄なく回収し、鉱害を発生させないといった現代では当然と思われることに、当社はいち早く取り組んできました。そういった長い歴史を通じて蓄積した鉱山・製錬業をベースとした技術を、現在は環境ビジネスへ応用し、金属リサイクル、土壌浄化、廃棄物処理といった事業を展開しています。製錬プロセスにおけるリサイクル原料の比率アップによる資源の有効利用の促進、廃棄物の焼却処理から最終処分場、あるいは汚染土壌の調査から浄化までの一括した処理を行うことによる環境リスクの低減などの、DOWAならではの事業は環境問題に対し大きく貢献していると自負しています。また、これらの事業は日本国内だけでなく、東アジアなどにも進出しており、当社は環境事業のリーディングカンパニーとして、国内外にその事業領域を広げています。

また、自社の環境負荷の低減にも努力しています。有害物質フリー素材による環境リスクの低減、省エネルギー型熱処理炉の開発や廃熱発電、サーマルリサイクルによる省エネルギーの推進、操業プロセス改善による水資源の節約、物流を鉄道輸送へシフトすることによる温暖化ガスの削減など、あらゆる手段を講じています。

今後も当社の鉱山・製錬をベースとした技術を応用すると同時に新たな技術開発にも積極的に取り組み、今まで以上にDOWAならではの事業を通じ、社会全体の環境問題の解決に取り組んでいきます。



## 環境汚染防止体制の強化と地域貢献

当社は、環境事業のリーディングカンパニーとして環境ビジネスを展開しているため、より誠実に環境汚染防止、遵法に取り組む必要があると認識しています。そのためには、従業員一人一人の意識が重要と私は考え、ありとあらゆる機会を通じ、従業員に対し、環境汚染防止、遵法の重要性について話しています。さらに、経営幹部の研修だけでなく、従業員全体のレベルアップを目的により一層、人材開発に注力していきます。一方で、生産現場においては、非常時訓練、各プロセスにおける2重3重の環境汚染防止体制の構築、環境管理マネジメント体制の整備など絶対に環境汚染を発生させないことを念頭に取り組んでおり、今後も様々な手法を通じて環境汚染防止体制を強化していきます。

また、当社の事業活動、とりわけ環境事業には、地域の皆様のご理解、ご協力が欠かせないと思っています。私どもは工場見学受け入れ、情報公開、地域清掃、緑化やボランティア活動、地元での祭礼やイベントへの協力など、地域コミュニケーション活動にも積極的に取り組んでいます。平成17年度には、地元での資源循環利用の視点を加えた地域コミュニケーションとして、地元の豚の飼育で発生する堆肥と、当社の土壌洗浄プラントで浄化した清浄土を森林の土壌作りに使用する試みを始めました。これからも地元で根ざした信頼ある企業を目指し、透明・誠実・安心をモットーに地域の皆様と二人三脚で進めていきたいと考えています。

## グローバルな資源の有効利用を目指して

国際化社会の発展に伴い、経済活動のボーダレス化が進み、製品や資材など物の移動も容易になってきました。一方で、環境問題、例えば、きちんと処理されずに河川へ排出された廃水、安

全に処理されなかった廃棄物、十分にリサイクルできず有効利用されないまま残っている資源などの問題などがクローズアップされてきました。

そういった中、外資系企業や行政からの、安心して廃棄物処理を任せたい、きちんと資源を有効活用してもらいたいといった要望に応じ、当社は平成15年度より中国において貴金属回収事業をスタートさせました。平成17年度には新たに乾式プロセスを導入し、さらに事業強化を図っています。もちろん、これらの工場には、日本と同様のダイオキシン等の除去設備、廃水処理設備を設置し、日本と同等の基準で、排ガス、排水の処理を行っています。

また資源の有効利用といった面でも、当社は東アジア全体における、より環境負荷の低い資源リサイクルのネットワークを提案したいと考えています。すでにこれだけ、物の移動が容易になり、スピードも速い現代において一つの国で閉じた資源リサイクルのネットワークを最初から構築するのは環境負荷が高いと思います。それぞれの国が特徴を活かしてリサイクルのネットワークに参加し、相互に補完しながら、安全に資源を有効利用していくといったグローバルな資源の有効利用システムを構築する必要があると考えます。

当社の企業理念は「当社は地球を舞台に内外の経営資源を駆使して人類の快適な暮らしを創造する。」です。この理念に基づき、社会的使命感を持ち、グローバルな資源の有効利用を目指して、国際資源循環社会の構築の一翼を担っていきたくと考えています。

## 環境報告書をご覧の皆様へ

当社は、現状に満足することなく、これまでの環境への取り組みをさらに拡大させていきます。本年度の環境報告書においては、昨年同様、当社の取り組みが出来るだけ多くの人にご理解いただけるよう、分かりやすい記述を心がけました。ぜひとも、皆様の忌憚のないご意見を賜りたいと思います。

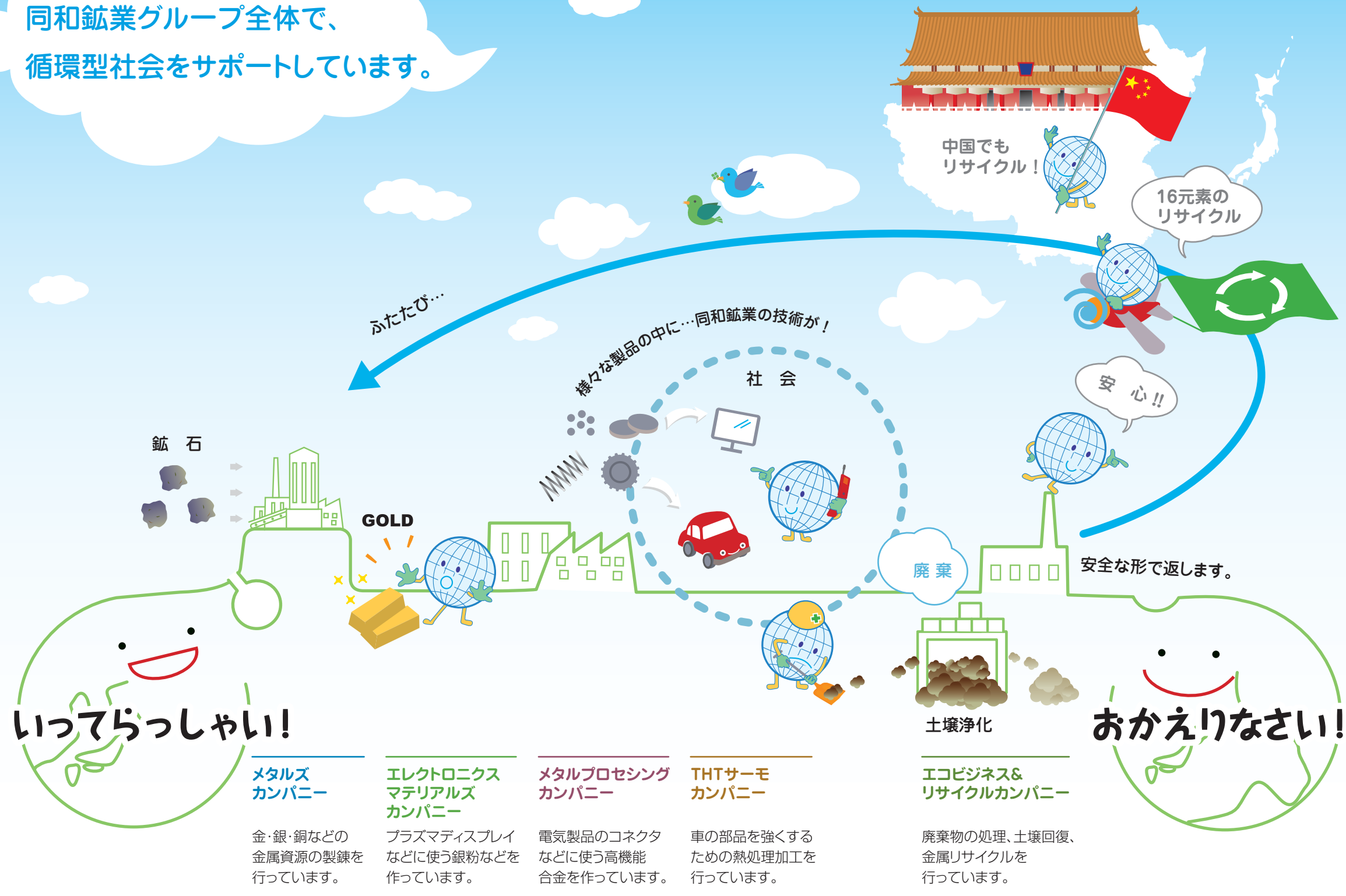
代表取締役社長・CEO

吉川 廣和



# DOWAって、こんな会社です。

同和鉱業グループ全体で、  
循環型社会をサポートしています。



※2006年4月より「エレクトロニクス&メタルプロセッシングカンパニー」は、電子材料部門の「エレクトロニクスマテリアルズカンパニー」と、金属加工部門の「メタルプロセッシングカンパニー」になりました。本報告書の環境パフォーマンスデータは、2005年度を対象としていることから「エレクトロニクス&メタルプロセッシングカンパニー」として集計しています。

## INDEX

トップメッセージ	01
DOWAの資源循環事業	03
目次	04
同和鉱業の事業と環境プロジェクト	
●組織とビジョン	05
○中国特集-中国環境リサイクル事業の展開	07
○キューボラダストの再資源化	11
○最新鋭の省エネルギーへ本社移転	12
○ガス加熱式吸熱型ガス変成炉	13
○酸化銀電池用(水銀ゼロ)亜鉛粉	14
○産学官連携プロジェクト「地図インフォマティクス」	15
○地域との連携による森林育成	16
●同和鉱業グループの社会・環境貢献	17
環境報告	
●事業活動と環境影響	19
○INPUT	21
○OUTPUT	23
●環境管理システム	27
●安全に対する取り組み	29
●環境会計/EEBE®	31
●環境コミュニケーション	33
サイトデータ	
○小坂製錬株式会社	37
○秋田製錬株式会社	37
○岡山クリーンワークス	38
○日本パール	38
○同和鉱業 岡山工場	39
○同和メタル株式会社	39
○THTサーモ 豊田工場	40
○THTサーモ 滋賀工場	40
事業の概要	
●会社概要	41
●事業展開	42
●環境・社会活動の歴史	43
●基本要件・ガイドライン対照表	44

### 編集方針

本報告書では、当社の事業活動にともなう環境影響について正確な情報開示に努め、また図表などを用いわかりやすい体裁を心がけました。

#### 対象組織

同和鉱業の直轄工場/事業所およびグループ各社

○対象事業所の選択理由：原則として、連結対象で従業員50名以上の事業所および会社を報告対象として選定しました。ただし、同和鉱業本社およびイー・アンド・イーソリューションズについては、ユーティリティや廃棄物量の正確な把握が困難であることから、それぞれの業務上で環境負荷が大きいと考えられる電力消費量のみを集計しました。

#### 対象とする読者

顧客、株主・投資家、ビジネスパートナー、社員とその家族、行政、地域・社会の皆様を大切なステークホルダーと考え、本報告書の主な読者と想定しました。

#### 対象分野

同和鉱業グループの事業活動および環境保全活動について

#### 対象期間

2005年度(2005年4月1日～2006年3月31日)

#### ガイドラインへの準拠

本報告書は環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」を参考としています。

#### 今後の方針/ご意見の募集ほか

アンケートを同封しております。皆様の忌憚のないご意見・ご感想をお寄せください。

# 同和グループの環境への取り組み

われわれを取り巻く世界には化学物質による汚染やエネルギー問題、地球温暖化やオゾン層破壊等、さまざまな環境問題が存在します。

同和鉱業は自社の事業活動による環境負荷を適切に管理するとともに、高精度金属製錬技術を通じた資源リサイクルの促進、高機能素材の開発や省エネルギー炉開発等を通じた製品の環境性能向上への貢献、廃棄物管理／土壌浄化を中心とする環境事業による環境リスク低減など、包括的な環境サービスの提供により、人類の快適な暮らしと持続可能な社会の実現に取り組めます。

また、環境問題の国際化に対応するため、今後、総合的な環境サービスの提供と海外ネットワークを活かした国際間での物質循環システムの構築を図り、グローバル社会において環境・リサイクル分野で貢献できる企業を目指します。

## 環境基本方針

### 基本理念

同和鉱業は、企業理念である「地球を舞台に内外の経営資源を駆使して人類の快適な暮らしを創造する」ことを環境保全活動の基本とし、「地球環境の保全に配慮し、資源の有効活用とリサイクルを進める」ことを環境に関する行動基準とする。

同和鉱業は、企業活動と環境との調和を図りつつ地球環境への負担を低減し、地球的規模での持続的発展が可能な社会の実現に貢献する。

同和鉱業の環境保全活動は以下の通りとする。

- ① 当社の事業活動における公害防止、省資源、環境負荷の低減などの活動
- ② 社会の環境リスク低減に貢献するための活動

### 行動指針

- ① 環境負荷の継続的な低減及びゼロエミッションを推進するために、全社、各部門、並びに関係会社ごとに環境目的・目標を設定し、環境管理システムを構築する。
- ② 事業活動に係わる環境側面（大気、水質、土壌、廃棄物等）を常に認識し、環境負荷低減に取り組むとともに、定期的に環境目的、目標の見直し及び環境監査を実施する。
- ③ 事業活動、製品、サービスに係わる環境関連法規、規則、協定等の遵守に努め、環境の保全と向上を図る。
- ④ 当社の環境・製錬施設を通じて、廃棄物、土壌汚染など社会の環境リスク低減に努めるとともに、金属のリサイクル、エネルギーの回収及びクリーンエネルギーの利用を実施し、環境保全、省エネルギー、省資源、ゼロエミッション等に貢献する。
- ⑤ 従業員の環境への意識向上をはかり、また環境保全活動を通じて地域社会との調和を図る。

2001年1月1日 同和鉱業株式会社

